

令和 8 年度 第 1 回子ども部会 議事録

日 時:令和 8 年 5 月 14 日(木) 13:30 ~ 15:00

場 所:アマホーム PLAZA 大多目的室

参 加 者 :松尾(nYokki)、岡村(あすなろ)、大山(あんだんて)、福田(にこぴあ)、麓、鎌田(のぞみ園)、
西(はごろもの郷)、前山(ヒマワリクラブ)、内野(ヒマワリ就学塾)、前田(愛かな)、福原、青井(聖隷かがやき)、
直(ハートリハ龍郷)、泰(みらいはうす)、向、境田、里(チャレンジドサポート奄美)、勝田(相支:聖隷かがやき)、
児玉(相支:のぞみ園)、田中(奄美市教委)、上田、鶴田(特別支援学校)、丸山、池田(大島北高校)、
新富(大島児童相談所)、川路、塩屋、村尾(名瀬保健所)、林(奄美市健康増進課)、安田(奄美市福祉政策課)、
山畑、阪本(瀬戸内町町民税務課)、染川(龍郷町子ども子育て応援課)、福崎、恵島、向井(ぴあリンク奄美)
オンライン:星村、最上(スターズ)、渡(ここ園)、原、岩田(療育センター)

※敬称略 参加者:42 名

1.参加者自己紹介

2.報告/情報提供

①事務局より

「令和 7 年度活動報告・令和 8 年度活動目標について」

②チャレンジドサポート奄美より

「令和 7 年度療育支援事業活動報告」

③奄美市福祉政策課・奄美市健康増進課より

「療育利用の流れについて」

- ・奄美市では療育に繋がる子供が増加しており、つなぎもスムーズになってきている現状がある。
- ・療育利用には手帳所持が基本ではあるが、保健センターで療育支援の必要性を確認し給付決定を行っている。
- ・無償化により利用に対するハードルが低くなった分、利用前の適切なアセスメントが必要。

④あんだんて より

「2026 離島の特別支援教育を語りつなげる大交流会 案内」

- ・参加希望の方は あんだんて ホームページへメール申込。

3.グループワーク

議題:第 4 期障害児福祉計画策定に向けた要望について

◎サービスの地域格差

- 笠利町において、障害児が利用できるサービスが十分ではない。
- 住用町・大和村・宇検村・笠利町には療育事業所がないため、名瀬地区や龍郷町の事業所を利用する流れになっているが、送迎に課題がある。(過去に、住用町の途中まで保護者が送迎し、そこから事業所が引き継いで送迎したケースもある)
行政による送迎の定期便などを出すことはできないか。

◎学童との連携

→学童保育の先生方が支援に困っているケースが増えている。

子ども部会としても学童に介入できれば、利用している子ども達も安心して過ごせるのではないかな。

◎通学支援

→鹿屋市の学校では、特例で母親に訪看が付き添って通学している事例がある。

財政に余裕のある市町村なら同様の対応が可能かもしれないが、それでは地域間での平等性が保てなくなる。市町村単独ではなく、県としての支援が必要なのではないかな。

◎サマーセミナー

→夏休み期間中の開催だと療育関係機関職員は繁忙期のため参加が難しい。

◎サービス支給量について

→サービスを利用したいが利用できていない児童がどのくらいいるのか、行政として把握しているのか。

◎保育所等訪問支援

→訪問の目的を明確にし、訪問する側・受け入れる側の双方がメリットを得られる支援内容にしていく必要がある。

◎医療的ケア児の就学も含めた支援体制

→奄美市では、小中学校へ支援員(看護師)を配置している。

また未就学児については、業務委託による支援体制を構築している。

補助金も活用しながら、地域としての体制構築が進み始めたところである。

今後は、必要な関係機関との顔の見える連携づくりを行っていく必要がある。

◎医療的ケア児の受け入れ体制

→法整備が進められてきたが、配置された現場看護師の孤立や保育士への配慮不足などの課題がまだ残されている。

◎情報共有シートの活用

→障害のみが原因ではなく、家庭環境など複合的な問題を抱える児童も増えてきており、より丁寧なアセスメントが必要である。

地域全体で「きらきらリレーファイル」の活用がどれだけ進められているのか、現状を確認していく必要がある。

*「第4期障害児福祉計画」の策定に向け、各機関の視点から貴重なご意見・ご要望をお寄せいただき、誠にありがとうございました。

皆様からいただいた現場の声を報告書にまとめ、各市町村へしっかりとお届けしてまいります。

子どもたちの未来を支えるネットワークとして、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。